



# 安八交番だより

222

## 振り込みめ詐欺に

注意!!

全国的に依然として振り込み詐欺の被害は後を絶ちません。犯行グループは、他人名義の携帯電話や預貯金口座を利用して、組織的に犯行を繰り返しています。

昨年、岐阜県下での振り込み詐欺被害の認知件数は95件、大垣署管内では13件です。その内、特にオレオレ詐欺は県下で55件(前年対比+6件)、大垣署管内で8件(前年対比+2件)、還付金等詐欺は県下で12件(前年対比+12件)、大垣署管内で5件(前年対比+5件)の被害が発生しました。

これら犯人の手段(以下4種類)を知り、絶対に被害にあわなうよう心がけよう。

### ◆主要な手口及び被害防止ポイント

#### ①オレオレ詐欺

電話を利用して、親族、警察官、弁護士、会社の上司等を装い、交通事故、痴漢行為、損害行為に対する示談金等を名目に現金を預金口座等に振り込ませよなどの方法によりだまされる詐欺です。

#### ※被害防止のポイント

「お中元」等、あわてて振り込みをさせないように

するのは詐欺と疑ってください。警察や銀行協会の職員が暗証番号を尋ねてキャッシュカードを預かることはありません。

#### ②架空請求詐欺

郵便、インターネット等を利用して、不特定多数の者に対し、有料サイトの料金が未払いであるなど架空の事実を口実として、料金を口座に振り込ませよ等の方法によりだまされる詐欺です。

#### ※被害防止のポイント

インターネットやゆうパックで送金を要求されたら詐欺と疑ってください。

#### ③融資保証金詐欺

実際には融資しないのにも関わらず融資する旨の文書等を送付するなどした上で融資を申し込んだ者に対し、保証金等を名目に現金を口座に振り込ませよなどの方法によりだまされる詐欺です。

#### ※被害防止のポイント

レターパックやゆうパックで送金を要求されたら詐欺と疑ってください。相手が「融資してくれるか」冷静に判断して個人情報を相手に教えないこと。

#### ④還付金詐欺

市役所等を装い、携帯電話で言葉巧みにATMを操作させ、気が付かないままに犯人が管理する口座宛に振り込み送金させる詐欺です。

#### ※被害防止のポイント

還付金があるという、キャッシュカード・携帯電話等を持参させ、最寄りのATMへ行かせて携帯電話でATMの操作を指示するのは還付金詐欺(疑ってください)。

### ◎「おかしい」と感じたなら、一人で判断せず家族や最寄りの警察署・交番に相談してください。



# 消防署だより

82

## 熱中症に

ご注意ください!!

### ◎熱中症とは・・・

「熱中症」は日射病や熱射病などの総称で「高温下での運動や労働のため、発汗機能や循環系に異常をきたして起こる病気です。体温上昇、発汗停止とともに虚脱、けいれん、意識障害などを起こし、生命の危険を伴うこともある」とされています。こんなときは熱中症を疑いましょう

- 大量発汗している
- 暑いのに汗をかいていない。皮膚が乾燥している
- 腹部や足の筋肉がけいれんしている
- 排尿回数が少ない。尿の色が濃い
- 意識状態がいつも違い、もろいことになっている
- 体温が上昇し呼吸や脈拍が速くなる
- 強い疲労感、吐き気、頭痛がある
- 体温が40度以上ある

### ◎熱中症を予防するために・・・

- ①高温多湿を避ける  
熱中症の原因の一つが高温多湿です。屋外では強い日差しを避け、屋内では風通しをよくするなど高温多湿の環境を避けましょう。

#### ②直射日光を避ける

外出時の服装は、吸湿性や通気性の良い素材を選びましょう。また、防止や日傘を使い直射日光を避けましょう。

#### ③暑さに身体を慣らすこと

軽い運動など、身体に強い負担のかからない範囲で身体を動かして暑いときにより汗をかくことで体温を調節できるように、暑さに対して身体を徐々に慣らすようにしましょう。

#### ④スポーツ実施時は運動と休憩のメリハリを

スポーツ実施時には、やる人はもちろんのこと、特に指導者やリターは熱中症に対して常に警戒し、計画的に休憩や水分補給の時間を設けましょう。

#### ⑤無理はしない

暑さのなか、少しでも体調に異常を感じたら運動や屋外の活動を中断しましょう。やる勇気も必要です。

#### ◎子どもだけにしない

炎天下の車内は想像以上に高温になります。絶対に子どもだけを残して買い物などに行かないようにしましょう。

### ◎熱中症に対する応急処置のポイント・・・

- ①風通しのよい日陰や、冷房の効いている場所に移動しましょう。
- ②衣服をゆるめて、身体を楽にしましょう。
- ③冷たい水で冷やしたタオルを脇の下や足の付け根に置き、身体を冷やしましょう。
- ④自分で飲めるようなら、水分補給をさせましょう。ただし、意識障害があり、自分で飲めそうもない場合は、無理に水分を補給する必要はありません。
- ⑤意識がもうろうとした場合は早めに医療機関へ送診しましょう。